



埼玉医科大学 総合医療センターニュース

SAITAMA MEDICAL CENTER NEWS

No. **38** 2015
February



CONTENTS

ご紹介

腎・高血圧内科、人工腎臓部 田山 陽資 P-1

泌尿器科 岡田 洋平 P-3

トピックス

第2回SMCメディカルラリー開催—メイヨクリニックに続け！SMCチーム医療の推進
..... 高度救命救急センター看護師長 白井美登里 P-5

連載

近よらない!!『危険ドラッグ』... 薬剤部 田代 寛之 P-7

マンモグラフィとは 中央放射線部 P-8

教室シリーズ

ようこそ赤ちゃんママバカラス
..... 周産期センター3階 八幡麻未・長房千紘 P-9

トピックス

川越市国民保護実動訓練
..... 高度救命救急センター 福島 憲治 P-10

特集

健康に役立つお話 診療サービス委員会 P-11

ニュース

当院看護師が人命救助に協力し感謝状を贈呈される！ P-12

トピックス

クリスマスコンサート 診療サービス委員会 P-13

お知らせ

駐車場の有料化について 総務課 P-14

外来受診について/面会者へのお願い P-15

社小江戸川越観光協会



基本理念

安全で質の高い医療を提供し、
地域から信頼される医療機関を目指します。

腎・高血圧内科、人工腎臓部

助教（医局長） 田山 陽資

総合医療センター 腎・高血圧内科は現在長谷川教授、加藤講師、叶澤講師、助教9名の12名で構成されています。また人工腎臓部には長谷川教授（兼任）、松田准教授、小川講師、助教3名の計6名が所属しており、両部門の密接な連携・協力のもと外来診療、病棟診療の他、年々増加の一途をたどる急性血液浄化や特殊血液浄化に加え、血管手術や血管内カテーテルインターベンション、腹膜透析、在宅透析管理、更に腎移植例の術後及び慢性期管理など、腎臓内科が関わり得るほぼ全ての領域の診療に従事しています。

腎・高血圧内科での主な診療内容は下記の通りで、今年度の通算病床稼働率も100%以上で推移しています。

①慢性腎炎・ネフローゼ症候群

埼玉県でも数少ない腎疾患の専門医療機関であり、日本腎臓学会の指定する腎臓専門医研修施設です。田山助教（医局長）、岩下助教（病棟長）を中心に、急性および慢性腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症や膠原病性腎症といった専門的加療が必要となる種々の腎疾患に関して近隣の施設より御紹介を受け診療を行っています。年間に100件を超える腎生検を実施し（2013年度118件）、その診断については科内でのカンファレンスのみならず病理部との合同カンファレンスや広く関東一円の腎組織病理診断の専門家から意見を頂き、診断を下しています。治療については蓄積されたエビデンスに基づく確立された免疫抑制療法（ステロイド、カルシニューリン阻害薬、エンドキサンetc.）を標準治療としつつ、難治性病態に関しては大学病院の責務として高度かつ先進的診療（リツキシマブなどの生物学的製剤etc.）や体外循環技術を用いた血液浄化療法（血漿交換、LDLアフェレーシスetc.）にも積極的に取り組んでいます。

②多尿やナトリウム・カリウム濃度異常などの水電解質代謝異常症

低ナトリウム血症や高カリウム血症など、種々の電解質失調や遺伝性尿細管疾患、尿細管性アシドーシス、電解質失調を伴う内分泌異常などに対し長谷川教授、清水助教を中心に診断と治療を行っています。この分野の臨床には腎生理学的な臨床パラメーターや、負荷試験結果などに対する専門的な解析能

力が必要で、当教室は数少ない、こうした分野に関する専門的な知識と経験を有する施設であり、当科の特徴の一つとなっています。

③治療抵抗性・二次性高血圧症、腎症合併糖尿病

当科は高血圧学会指定の臨床研修指定施設であり、下記疾患を中心に診断・治療を行い、学会主導の大規模臨床試験にも積極的に参加しています。

- 1) 腎実質性高血圧症
- 2) 腎血管性高血圧
- 3) 原発性アルドステロン症
- 4) クッシング症候群
- 5) 褐色細胞腫
- 6) 若年発症遺伝性高血圧症

また叶澤講師を中心に腎合併症を有する糖尿病診療に積極的に取り組んでおり、各種治療を組み合わせ、血糖管理と腎保護療法の両立を心がけています。

④腎性骨症

慢性腎不全に伴う長期合併症に、カルシウム・リンなどのミネラル代謝異常症とそれに引き続く骨代謝異常症（CKD-MBD）があり、透析例の生命予後規定因子としてだけでなく、近年は慢性腎臓病全般における管理の重要性が認識されつつあります。当科では加藤講師を中心に学外施設とも連携を取りながら、最新の治療法を取り入れた管理を心がけています。

⑤腎不全・血液浄化

院内の各種血液浄化療法を担う中央部門が人工腎臓部です。松田准教授、小川講師を中心に維持透析導入や合併症治療に伴う入院透析を行い、また急性腎不全、多臓器不全に対する24時間持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着、サイトカイン吸着療法などを年間300件以上実施しており、集学的重症管理の一翼を担っています。さらに近年増加しているのが診療各科と連携した様々な自己免疫性疾患に対する特殊血液浄化療法で、各種免疫吸着、血漿交換、LDL吸着、白血球除去療法など年間600件以上の実績があります。また松田准教授、田山助教を中心に腹膜透析の導入と管理にも積極的に取り組んでいます。在宅透析管理などを行っています。腎移植についても県内中心施設として肝胆膵外科、泌尿器

科、血管外科などと連携しつつ松田准教授を中心に当科で周術期及び慢性期の術後管理を行っています。

⑥ 血管手術・シャント血管カテーテルインターベンション

血液透析用内シャント作成手術は、病院によっては外科系の診療科が担当することも多いですが、当科では小川講師、清水助教、木場助教を中心に年間約100件のシャント手術も行っていきます。またシャント血管に対するカテーテルインターベンションは近年全国的に実施件数が増加しており、当科では学内外を合わせ年間500件以上の実施実績があります。

⑦ 腎移植

総合医療センターは県内の腎移植医療に於いて中心的役割を果たしており、当科は松田准教授を中心に肝胆膵外科の移植チーム、泌尿器科、血管外科などと連携して全教職員が移植医療に携わっています。

腎移植例の長期管理には慢性腎臓病管理、感染症や心血管合併症予防及び治療、糸球体腎炎再発や慢性拒絶反応等の移植腎障害の診断・治療など、内科的管理が重要であることから欧米では腎臓内科医が移植医療に大きな役割を果たしています。当施設では手術は外科が、周術期管理は内科と外科が、移植前評価、移植後慢性期管理は主に内科が中心となった集学的医療を実践しており、腎臓内科医が移植医療に積極的に関与していることも当教室の特徴の一つと言えます。

⑧ 多職種連携 (IPW)

診療の質的向上と医療安全確保のために、所謂チーム医療から一歩踏み込んだ多職種医療連携の重要性が指摘されています。当科でも看護部、栄養部、ME部との連携を積極的に指向しています。また軽症慢性腎臓病から保存期腎不全、透析導入期などの患者さんを対象とした「じんぞう病教室」を6年前から実施しており、当科医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療事務職員などによる多角的かつ実践的な情報提供を行っています。また医師会、保健所などと連携した市民公開講座も毎年実施しています。

県内及び地域の中心的な総合的腎疾患医療施設としての役割を果たすべく、周辺及び県内の医療機関との連携を推進しています。また当科は診療機関で

あると共に研究機関、教育機関でもあることから基礎研究、臨床研究、症例報告などにも積極的に取り組んでおり、英文原著、英文症例報告、海外国内の学会・研究会報告として成果を発表しています（平成25年度：英語論文8編、和文学術著作15編、海外学会報告12題、国内学会報告75題）。

今後も腎に関わるどんな疾患、検査、治療にも対応できる体制を維持、充実させ、患者さんのニーズにお応えしていくことを心がけて参ります。総合医療センター各診療科、各部署、各部門の皆様方のご支援をお願い致します。

教室作成のホームページも是非ご覧ください。

<http://www.dnh-smc.com>



手術研修にて



教授回診の様子



医局スタッフ

泌尿器科

病棟診療医長 岡田 洋平

<総合医療センターにおける尿路疾患への総合的治療>

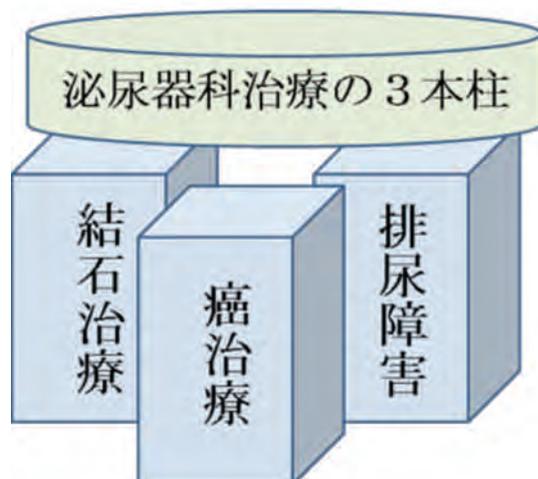
泌尿器科疾患に対する社会的ニーズの増大に対し、私たちの仕事の範囲は広がりを見せています。日々出会う患者さんの一人一人の健康回復を目指し、情熱をもって泌尿器科の道を進んでいます。

* はじめに：泌尿器とは

泌尿器科は主に尿路疾患に対して、外科的・内科的アプローチの両者による診断・治療を行います。対象臓器は副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺・尿道・精巣など、主に後腹膜腔に位置する臓器で、尿路だけでなく、精路・内分泌系も関係しています。それぞれ臓器において機能障害、感染症、悪性腫瘍などの疾患があり、泌尿器科がカバーする領域は広大なものになります。総合医療センター泌尿器科では、泌尿器科領域の全ての分野において、泌尿器科疾患の総合的治療を実践しています。

* 総合医療センター泌尿器科診療の3本柱

当科での診療には3本の柱があります。すなわち、①癌治療（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌など）、②排尿障害（前立腺肥大症、尿失禁など）、③尿路結石（腎結石、尿管結石）です。3つの柱を診療の軸とすることで、泌尿器科疾患の総合的治療を実現しています。



1) 増加する泌尿器科の癌

高齢化、生活環境変化により、泌尿器科で扱う癌は増加傾向にあります。とくに、腎癌、前立腺癌、膀胱癌は患者さんが多く、早期発見による早期治療が必要です。川越市では前立腺癌のスクリーニング検査としてPSA検診が行われており、検診を通じて

癌を早期に発見し、癌の根治に至る方も増えています。当科では“ミニマム創泌尿器科手術認定施設”の利点を生かし、根治性を担保しつつ患者さんへの負担の少ない外科治療を実践しています。放射線腫瘍科との連携においては、放射線治療・抗がん剤治療・手術療法による集学的な癌治療を行っています。病理部との連携では、合同カンファランスを通じて癌の診断・治療を検討し、手術で得られた細胞学的な情報を患者さんに還元する努力を日々継続しています。外来化学療法室との連携においては、患者さんの状態・生活にあわせて、通院による抗がん剤外来投与を行っています（ドセタキセル、ジェムザール等）。

<疾患別治療法>

前立腺癌：手術（前立腺全摘除術）、放射線（外照射、HDR: high dose radiotherapy）、ホルモン治療（LHRH関連製剤、新規ホルモン療法製剤）、抗がん剤治療（ドセタキセル、カバジタキセル）。

腎癌：手術（腎摘除術、腎部分切除術）、分子標的治療薬、インターフェロン、転移巣への放射線治療。

膀胱癌：手術（経尿道的内視鏡手術、膀胱全摘除術）、抗がん剤治療（ジェムザール・シスプラチン療法、ジェムザール・パクリタキセル療法、MVAC療法）、放射線治療、低用量シスプラチン併用放射線治療。

精巣癌：抗がん剤治療（BEP療法、VIP療法）、手術（高位精巣摘除術、後腹膜リンパ節廓清）、放射線治療。



泌尿器病理カンファランスにて症例を討議中

2) 排尿障害に対する取り組み

高齢化社会の到来と共に、健やかな排尿を維持することが求められており、排尿障害は泌尿器科疾患の最も重要なテーマです。とくに、男性においては前立腺肥大症、女性においては尿失禁が問題です。外科的アプローチ、新規薬剤を用いた内科的アプローチに加えて、生活習慣の改善に基づいた排尿支援を実践しています。腹圧性尿失禁に対しては、自己筋膜を用いた筋膜ハンモック法（山田法）を世界に先駆けて実践し、過去250例を超える良好な手術成績のもとに治療を行っています。軽症の場合は運動療法や干渉低周波による治療も行っています。

<疾患別治療法>

前立腺肥大：薬物療法、経尿道的前立腺切除
 過活動膀胱：抗コリン剤、 β -1刺激剤
 尿閉：カテーテル管理、自己導尿
 尿失禁：薬物療法、手術（筋膜ハンモック法）

3) 多彩な尿管結石治療

細径内視鏡の進化とエネルギーデバイスの発展により、尿路結石の治療はここ10年で大きく変化しています。結石破砕センターでは過去4000例に及ぶ治療実績のもとに、比較的小さな結石に対しては対外衝撃結石破砕（ESWL）を行っています。大きな結石や難治性の結石に対しては、経皮的に腎臓へ直接アプローチする経皮的結石破砕術（PNL）に加え、軟性・硬性尿管鏡を用いる経尿道的尿管碎石術（TUL）、さらにPNLとTULを同時に行うハイブリッド手術を行っています。結石破砕のエネルギーとしてはリソクラストのほかに、レーザー照射を用いています。当科では尿路結石に対する3つの治療法（ESWL, TUL, PNL）を行えるメリットを生かし、患者さんに最も適した治療法をオーダーメイドで検討し、最先端の結石治療を実践しています。



プロジェクターを用いての症例検討

* 医学部生・臨床研修医への教育

次世代の医療を担う医者を育成することも私たちの使命と考えています。学生の臨床研修では、患者さんの近くに寄り添い、病気を理解し、知識と技術を習得することを目標とします。



指導医による泌尿器科疾患の検討

* 総合医療センター泌尿器科の未来

患者さんへ最新・最良の医療を提供し、健康を回復していただく事を達成するために、医者、泌尿器科外来スタッフ、病棟（6階東）スタッフ、手術部スタッフ、病院内のあらゆる医療・事務担当者との緊密な連携を深めていきます。放射線腫瘍科、病理部との合同カンファランスは、病気への理解とよりよい治療法を検討する場として発展させていきます。ここ数年、連続して若い先生方が入局（就職）しており、医局には大変活気があります。中堅・ベテランスタッフも日々研鑽を進め、地域医療から世界へ発信できる泌尿器科医療を実現します。



泌尿器科手術器具：経尿道的内視鏡手術

* 上記以外の泌尿器科疾患・治療

副腎腫瘍：内分泌検査、手術、全身管理。
 尿路感染症（急性前立腺炎・急性腎盂腎炎など）：
 抗生剤投与、ドレナージ、敗血症の場合は全身管理。
 泌尿器科救急：腎臓、膀胱、尿管ステント留置、
 睪丸捻転、泌尿器科外傷など
 泌尿器癌患者の緩和治療：緩和医療チームとの協調

『第2回SMCメディカルラリー開催』-メイヨクリニックに続け!SMCチーム医療の推進

高度救命救急センター看護師長 白井美登里

11月10日(日)「第2回SMCメディカルラリー」を、当施設の公式行事として、看護学校にて開催しました。メディカルラリーは、模擬の傷病者や関係者役のスタッフが、臨場感たっぷりに演技する仮想現場において、いかに迅速で的確なチーム活動がなされるかを競う競技です。救急医療分野では、急患や急変・プレホスピタルにおける知識・技術・アセスメント能力の向上をめざし、全国各地でメディカルラリーが開催されています。一方で、SMCメディカルラリーは、一般病棟や外来看護師・他職種の方々の参加を推奨しています。救急医療の知識が不十分でも、個々の持つ力を最大限に発揮することで、チーム力が高まることを知ってほしい。そこで、看護部災害委員会とスキルラボ委員会が中心となり、昨年と同様、災害想定2と院内急変4、合わせて6ブースを設営し、3人一組、6チームで競いました。前日に模擬の病室や看護室を設営。昨年度のモニターは紙の箱でしたが、今年は本物のモニターやパソコン画面がモニターとなっており、シナリオに合わせて操作(ME・放射線科技師)され、昨年よりさらにリアル感がグレードアップしていました。



ブース2：胸痛だ！さあ、どうする？！

昨年のラリー経験者は、武川看護師と増田主任の2名だけでした。したがって、ラリーの企画・運営は、看護部を中心に行いました。今年度は、看護師以外の参加者を増やし、更なるチーム医療の強化を掲げました。看護師ならまだしも、他職種や医師への啓蒙には大変苦慮しました。通常、救急医療の現場にあまり関与していない部署の方々は、ラリーのイメージがわからず、参加希望者は、思うように集まりませんでした。ポスター掲示や科長会議でのアナウンスより、一番効果的だったのは共に働く仲間からのお誘いだったようです。最終的には、昨年度も参加したME・MA・総務・広報(本院より)に加え、薬剤師・理学療法士・放射線技師・認定看護師会の

事務員さんが新たに加わりました。

災害や急変時は、臨機応変で柔軟な対応が求められます。しかし、私達は、突発不測の事態に遭遇すると、頭が真っ白になり、いつもできていることができなくなります。これは、医療者であることのプライドと医療者に課せられたプレッシャーによるものだと思います。ラリー参加者には、楽しみながら学んでほしいという意図があり、事前にコスプレをお願いしました。初年度遠慮がちだったコスプレも、大会委員長の衝撃的なメイド姿(笑)に触発されたのか、今年度はなかなか盛況でした。



災害ブース：トリアージエローエリア編！

ラリー当日、影の大会委員長である武川看護師の進行で開会式が始まりました。そこで、巫女さんに扮した稲葉看護師(男性)がいきなりご乱心!「おまわりさーん!」の声を合図にミニスカポリス(ちなみに私♡♡♡)が、人ごみをかき分け登場!そのまま大会委員長挨拶…昨年は「祭りだ、ワッショイ!」今年度は「チーム医療を推進するぞ、御意!(Ns.X的な?)」の掛け合いで大会が始まりました。みなさんリラックスして大会に臨めたいでしょうか?

各ブース長へ本部よりトランシーバで指示が出され、1ブースでのラリーが終了するとフィードバックが行われます。次のブースへの移動までの間、水分補給とお菓子などが用意され、足りなくなると補給されます。また、各チームに1名ずつチューターが配置されており、各ストーリーの流出防止にも配慮されていました。前日、会場準備に来ていた救命の新人看護師・2年目看護師を引き連れて、各ブースをチャレンジしました。医師役(看護師)が1名ずつ配置されていましたが、今年は全ての医師が「ダメ医師または性格の悪い医師」でした。看護師さん達、普段余程ご苦労されているのでしょうか(笑)。

医師に何を聞いても「わからない」とか、逆に「どうしたらいい?」などと聞かれる…普段「医師から指示を受けて実施するのが当たり前」の看護師さん…、動揺しますよね。でも、チーム医療を、改めて実感できたのでは



優勝：4東マイルズ…昨年のリベンジ成功！

ないでしょうか？医師も人間…神ではないので、私達のフォローが無ければ、良い医療を提供できないのです。私たち看護師も、医師の指示をただこなすだけでなく、お互いの過ちを防ぎあう医療…それが医療安全に繋がるのです。

今年の優勝チームは、昨年に引き続き参戦した4階東病棟のチーム『マイルズ』。男性看護師と女性看護師2名で、若い柔軟性のある対応で見事リベンジを果たしました。昨年は、唯一MEさんが参加したOPE室チームに優勝をかささらされましたので、看護師の底力を見せることができました。

準優勝は、外来チーム『美熟女軍団』優勝チームと打って変わって妙齢の美熟女が、長年の経験を武器に大奮闘！困った患者様への対応「お見事！」でした。無理難題をふっかける患者様を、軽くあしらいつつ必要な配慮が的確にできる…長年の経験がなせる業ですね。最後の呼吸器組み立ては、外来看護師さんにはきついかも…あらっ余計なお世話でした。「呼吸器はわからない。」と医師が言っているのに、最後には呼吸器が組み立てられる看護師を、医師に派遣させちゃうというスゴ技！



準優勝：外来美熟女軍団 さすが年の功！

一方で、涙を流した看護師もいました。専門科が限定された特殊部門や、逆に専門科が限定されていない部署では、得意なブースになかなか出会えません。出来なくて悔しかったり、怖い役の演技者に恐怖を覚えたり、涙のわけは様々でしょうが、チューターさんや他のスタッフがフォローしている姿が印象的でした。ゆとり世代や悟り世代の看護師達が、これからのチーム医療を支えて…いや牽引していくのです。戦うことをせずに育ってきたゆとり・悟り世代の方々の心に、熱い火を灯

してくれたのではないのでしょうか。後日談ですが、落ち込んだ看護師の1人が、前向きな言葉と共にICLSの受講を申請してきました。ラリースタッフ一同、感激です！

また、昨年度優勝したOPE室チームには、今回、スキルスラボ委員と共にブースを担当して頂きました。昨年のチャレンジャーの看護師2名とMEさんを含め、新たなOPE室メンバーが加わり総勢9名、見事なチームワークでブース賞を今年もかささらっていきました。



ブース賞：昨年優勝したOPE室チーム

ラリーは、個々の能力によらず、チーム力が試されます。今年は薬剤師さんがチャレンジャーとしても、初参戦して下さいました。薬の指示すら出せないダメ医師の代わりに看護師が医師に薬の指示を出させる…そんな場面で看護師さんが薬剤師さんをうまく利用していました。他2名の薬剤師さんは、模擬患者さん役。チョット面倒くさい感じの役だった薬剤師さん…まさにヤクザ医師?!って感じでした。チーム医療の中心は医師と思われがちですが、「医師が良い医療を提供するために、チームメンバーがそれぞれの役割を全うすること」が重要なのだと思います。チーム医療の調整役は看護師であり、看護師は調整役ができる高い能力を持っていると言えます。

18名のチャレンジャーに対し、71名のスタッフ。ラリーは、チャレンジャーが学ぶだけのものではありません。ラリー経験を持たない者同士が企画運営することで、チーム医療の推進に繋がるのです。自身の能力を最大限に発揮すること、お互いを尊重し合うこと…それは、埼玉医大が掲げるメイヨクリニックの思想に通ずるものと思っています。



ラリースタッフ・チャレンジャー全員集合！

近よらない！！『危険ドラッグ』

薬剤部 田代 寛之

はじめに

今年も、「危険ドラッグ」を使用した者による車の暴走事件の報道が相次いでいることは、みなさんをご存知かと思います。この「危険ドラッグ」とは、規制薬物(覚醒剤、大麻、麻薬など)又は指定薬物に化学構造を似せて作られ、これらと同様の働き(薬理作用)を有する物品をいい、麻薬や覚醒剤より危険な成分が含まれていることもあります。



以前に耳にしていた「脱法ハーブ」とはハーブ状の「危険ドラッグ」をいいます。乾燥植物片に「危険ドラッグ」を混ぜ込んだものであり、吸引すると意識障害(要するに記憶がなくなる)などを起こす大変危険な物で、料理などで使う一般の「ハーブ」とは全く違うものです。

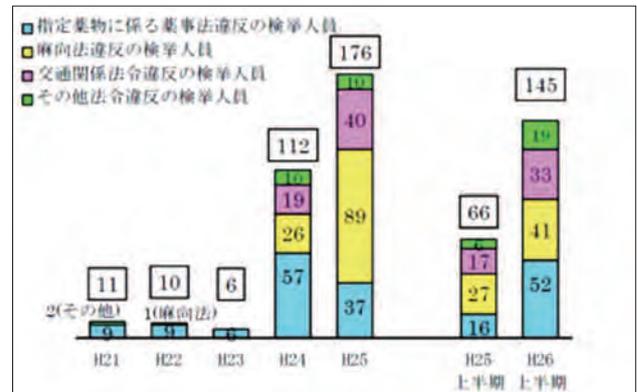
近年の「危険ドラッグ」には複数の合成化学物質が混ぜ込まれているため、「使うとどうなるのですか?」ときかれても、「何が起きてても不思議ではありません」と答えるしかなく、最悪の場合は死に至ってしまうこともあります。それゆえ、「危険ドラッグ」は現実的には危険な「毒物」だと警告している専門家もいます。



「脱法ドラッグ」から『危険ドラッグ』へ!

社会問題化しているこの危険な物品について、警察庁と厚生労働省は、平成26年7月22日、名称を新しく『危険ドラッグ』に決めたと発表しました。覚醒剤や大麻以上に幻覚や興奮作用がある薬物もあり、これまで呼ばれていた「違法ドラッグ」、「脱法ドラッグ」、「合法ドラッグ」や「脱法ハーブ」といった名称では危険性が伝わらないという考えからです。新たな呼称名がみなさんにしっかり浸透することで、非常に危険なものだと認識してもらうことが期待されています。

平成26年上半期の危険ドラッグに係る検挙状況



「いたちごっこ」から新たな取り組みへ

平成25年、国は危険ドラッグ規制の決め手として、有害な薬物1300種類以上に広く法の網をかける「包括規制」を始めました。しかし、さらに複雑な化学構造を持つ「危険ドラッグ」が次々と開発されて、規制をかいくぐって流通する「いたちごっこ」が今も続いているのが現実です。また、ハーブ状以外にも「お香」や「アロマ」など見た目ではわからないように形状を変え、目的を偽装して販売されていたりもします。

この現状を変えるため、平成26年8月下旬、厚生労働省の地方厚生局麻薬取締部は、「危険ドラッグ」を販売している疑いのある店を対象に、一斉立ち入り検査を行いました。そして、厚生労働省は、薬事法の指定薬物を含む疑いのある商品が見つかったとして、4都府県の計30店舗に対し、商品の成分検査の結果が出るまで販売を禁じる初の販売停止命令を出しました。この新たな取り組みの成果にも期待したいと思います。

“くすり”は異物!

「危険ドラッグ」はもちろんのこと、みなさんが普段服用している「お薬」も、体にとっては異物です。薬物(医薬品を含む)は体にさまざまな影響を及ぼすため、「お薬」には病気を治したり、症状を軽くする効果(主作用)がある反面、本来の目的以外の好ましくない働き(副作用)が現われることもあります。皮疹、かゆみ、吐き気、めまい、眠気、その他いろいろな副作用がありますが、ときに命にかかわる重大な副作用が現われることがあります。もし、お薬を服用していて(使用していて)、気になる症状が出てきた場合には、主治医あるいは薬剤師にお問い合わせください。

—マンモグラフィーとは—

中央放射線部



RT JOURNAL

放射線

2015

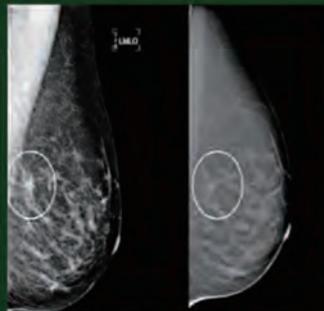
vol.2

マンモグラフィー

当院では「マンモグラフィー検診精度管理中央委員会」の施設認定を受け、また、同医委員会の認定を受けた診療放射線技師が撮影を行っています。埼玉県では唯一、乳房を立体的に観察できる最新の装置が導入され診断能の高い画像を提供しております。



マンモグラフィ装置



通常画像(左図)で疑わしき領域が、立体画像(右図)で乳腺の重なりで正常と診断できた症例

身近な放射線



パワーストーン

身近なアクセサリとして人気のパワーストーンですが、中には放射性物質を含む鉱石が存在するのはご存知ですか。

(例)10月の誕生石であるタイガーアイ
1つ身につける場合においては被ばくに関するガイドラインがあるようですが、逸脱した使用は対象外のようなのです。

ご興味有る方は下記のガイドラインをご参照下さい。
「ウラン又はトリウムを含む原材料、製品等の安全確保に関するガイドライン」



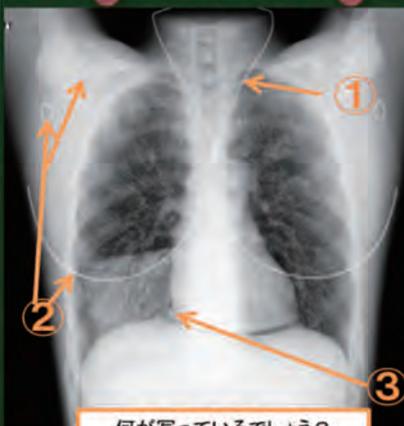
温泉、岩盤浴

ラドン、ラジウム温泉

編集後記

「思うこと」と「知ること」の間には大きな差があります。放射線に対して情報が錯綜する中、正確な情報だけを手に入れることが難しい状況です。このジャーナルを通じて、少しでも放射線について知っていただけたら幸いです。

クイズ



何が写っているでしょう？

寒い季節には温かい温泉が恋しくなります。日本各地には様々な源泉が存在しますが、放射性物質(ラジウム)を含む温泉が存在するのはご存知ですか。

秋田、新潟、山梨、鳥取には四大ラジウム温泉があります。

「放射線を浴びては体に悪いのでは!？」とお思いになると思います。

しかし、大量の放射線は有害ですが、微量の放射線は、生物に害を与えることはなく、むしろ活力を高める効果(放射線ホルミシス効果)があります。

クイズ回答は最終ページにあります。

ようこそ赤ちゃんママパクラス

周産期センター3階 八幡 麻未・長房 千紘

ママパクラスとは??

周産期センター2階産科外来では、外来通院されている妊婦さんとそのパートナーの方を対象に、両親学級であるママパクラスを定期的を開催しています。毎月第1～4週土曜日に開催しており、クラスの内容は、妊娠・栄養編、分娩編、新生児編があります。すべて受講されても、一つだけの受講でも構いません。ただし、パートナーの方の立ち会い分娩を希望されているときには、パートナーの方も必ず同席のもと分娩編の受講をお願いしています。今回は、妊娠・栄養編について紹介していきたいと思ひます。

ママパクラス 妊娠・栄養編

《充実したマタニティライフを過ごそう!!》

妊娠・栄養編は、妊娠23週までの方を対象としています。指導目標は、1.自分のマタニティライフを考えることができる 2.栄養・食生活の見直し、健康管理の方法を考えることができる、を目標として行っています。

内容は、産科医師より妊娠中の問題点について、管理栄養士より妊娠中の栄養について、助産師より一冊の本の紹介と、この先も楽しくマタニティライフが過ごせるように、困っていることや工夫していることなどについてのグループワークを行い、仲間づくりをしてもらっています。グループワークを通し、つわりなどの辛い時期を他の妊婦さんも経験しているのだからとわかり、妊婦さん同士「一緒に頑張りましょう」と励まし合っている姿を良く見かけます。



妊娠・栄養編では、栄養面を中心としており、管理栄養士からは妊娠中の栄養についての話があり、実際どのくらいの食材が妊娠中には必要かなど食べ物の模型を使用し、妊婦さんと一緒に手を動かしながら考えていきます。自分の今の食生活を見直す良い機会になります。

また、これからのマタニティライフに役立つ情報が満載です。

私たち看護スタッフからは、「私があなたを選びました」という本を、気持ちが落ち着くようなCDを流しながら、朗読させていただいています。それ

ぞれに様々な想いを感じ、時には涙を見せる妊婦さんやパートナーの方もいます。改めてお腹の赤ちゃんとお話しをしていただけたらと思っています。

ママパクラスのテキストと朗読する本です。



そして、パートナーの方が参加されている場合には、妊婦体験ジャケットを着用してもらい、臨月の妊婦さんの気持ちを理解していただいています。

他にも「ゆうちゃん」という胎児モデルの模型を見て、おなかにいる我が子はこれくらいの大きさなのかと感じてもらったり、胎児の大きくなっていく過程を感じてもらったりして、ママやパパになるということを実感できるような工夫をしています。



週数ごとの胎児モデルです。

～体験談～

Q 妊娠栄養編に参加してみてもいかがでしたか?

A 栄養(食事)のお話は具体的で分かりやすかったです。助産師さんのお話も「心の温かさ」が伝わってきました。

A 栄養の摂取量が分かり、とてもよかったです。同じくらいの妊婦さんの悩みを知ったり、相談できて少し気が楽になりました。

このように妊娠初期に友達をつくる機会ともなり、その後のマタニティライフを楽しんでいる妊婦さんを見かけます。週数が近いということで、陣痛室や分娩室が同じで赤ちゃんが産まれた後まで連絡を取りあっている妊婦さんもいます。

ママパクラスに参加し、一緒に赤ちゃんを迎える準備ができたらよいと思います。ご興味のある方は産科スタッフまでお気軽にお声かけください。

川越市国民保護実動訓練に参加しました

高度救命救急センター 福島 憲治

平成26年度国民保護実動訓練に参加した内容を報告します。この訓練は、平成16年に成立した国民保護法に基づき行なわれているもので10回目の開催となります。今回の訓練は化学剤と爆発物を用いたテロ行為を想定して行なわれました。今この文章を書いている時点ではフランスでの大規模な同時多発テロが起きたばかりであり、我が国でもサリン事件を経験している以上このような設定はいわゆる想定内の出来事ととらえなければなりません。



実施日時は平成26年11月25日、場所は川越運動公園体育館とその周辺にて行なわれました。当日の天気は雨、最高気温11度という気象条件で、予定されていたドクターヘリの参加も天候から中止となりました。参加機関は県、川越市、陸上自衛隊、県警、防災航空隊、川越地区消防局、小川日赤、日赤埼玉県支部、川越市自治会、川越市施設管理公社、大宮ビューティアート専門学校(こういった訓練につきものの傷病者のメイク(ムラージュといいます)をしてくれました)と当病院でありました。参加人数は約700人。2020年東京オリンピックでのゴルフの会場である川越市での開催というのが特徴であり、引き続き同様な訓練の開催を望みます。訓練項目としては(1)現場における初動体制の確立、



(2)緊急処理事態対策本部の設置、というもので、当院は(1)における医療活動を担いました。当院からの参加者は5人(医師2名、看護師2名、調整員1名)で、医師1名は現地調整本部に入り医療活動の統括、4名は救護活動を小川日赤の救護班と共に活動しました。

このような訓練において現実の災害とは異なる動きをしないと行けないケースがたびたびあります。この訓練においても化学剤を散布した上で爆破行為を行なっている事から、現場での活動は安全(許容出来ない危険がない、又は避けられる)の保証が無い限り、民間人は活動してはいけません。もし現場活動を成り立たせるのであれば医療に関していえば自衛隊衛生班であるべきです。それでもこういった形で訓練を行なわせるにあたっては、県側との交渉の上である約束を取り付けました。それは現場活動における安全の確保を警察/消防に宣言させる事でした。この訓練においては県側が調整し、警察/消防についてもその宣言を実施してくれました。これは画期的な事で、警察/消防/自衛隊といった危険現場活動組織ではない医療がこのような場所で活動するには必ず必要な事柄なのです。このような現場で2次災害を出さない努力をする事が、訓練の効果としても重要なものとなってきています。

無事支障なく訓練も終了し、上記の様な新たな獲得事項も達成しました。こういった出動がない事を願うばかりですが、絶えずこのような訓練を行い質の向上に努めたいと考えています。



健康に役立つお話

診療サービス委員会

昨年の7月から始めた「健康に役立つお話」。このところ大変喜んでいただけており、私たちサービス委員会としてもやりがいを感じています。

講師は医師・看護師・栄養士・薬剤師・リハビリ訓練士・歯科衛生士など、総合医療センターの職員にお願いし、一回30分と大変短い時間にも関わらず皆様に分かりやすい内容の資料を作成していただき、また、パワーポイントを用いてお話していただいております。

終了後の参加された方々に感想をおききしますと、「ありがとうございました。大変わかりやすく勉強になりました。この病院が大好きなのでこれからもがんばってください。」と激励されます。

先日開催しました大貫先生の「認知症のお話」では、「私は医師として外来の患者さんを診断していますが、ご自分の病気のことをもっともっと知ってもらいたい。そして苦しいばかりではなく、病気も

仲間にして楽しい人生を生きていただきたいという最初の言葉が忘れられません。印象的でした。外来で多くの先生に診ていただけていますが、本当に自分の病気の事がわかっているだろうかと考えるようになりました。病気ばかりではなく人生を楽しく生きてほしいなんて先生に言われると、本当にありがたいです。」と、おっしゃった方がいました。先生の何気ない一言が、病院のイメージを変え、勇気を与えたのは確かです。

待ち時間対策から始まった「健康に役立つお話」ですが、今後も皆様の要望にお応えし、「聞いてよかった」と思ってもらえるよう取り組んでいきます。

毎週月曜日、11時からと午後の2時に行います。どうぞお立ち寄りください。

質問やご意見などいただければ幸いです。

開催月	開催内容			
10月	歯の健康	たかが爪切り、	インフルエンザ	
11月	歯と健康	薬の正しい使い方		
12月	皮膚疾患について	消化器のはなし	健康は栄養から	正しい歩き方
1月	認知症について	アレルギー		
2月	乳がんについて	うつについて	脳卒中について	めまいについて



消化器のはなし



胃腸と食欲について



認知症について



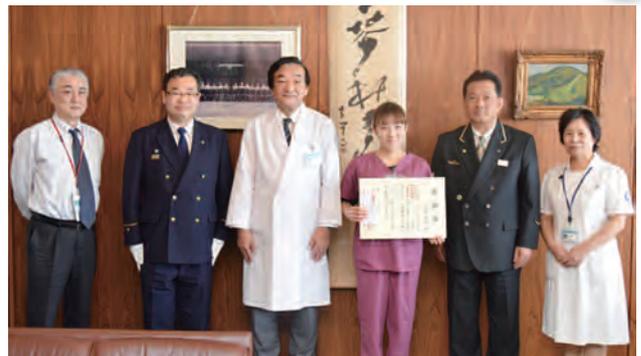
健康は栄養から

ニュース

当院看護師が人命救助に協力し感謝状を贈呈される！

平成26年11月22日豊島区JR池袋駅ホームにて埼玉医科大学総合医療センター看護師 中澤成栄さんが心肺停止状態に陥り生命の危機に瀕していた男性に対し、迅速的確な救護行為を行ったとして、東京消防庁、東日本旅客鉄道株式会社から感謝状を授与されました。

感謝状の贈呈式は、26年12月5日に埼玉医科大学総合医療センターに於いて堤晴彦病院長の同席の下、厳粛に行なわれました。



看護師募集

看護師募集中です

総務部人事課



看護師募集中！！

最も環境の整った大学病院で、
地域に密着した高度な医療に貢献しませんか。

※病院見学、インターンシップ、いつでも大歓迎!! Facebookも更新してます!
詳しくはQRコードより

看護師求人ホームページ <http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/nurse>

看護部 Facebook ページ <https://www.facebook.com/smu.nurse>

埼玉医科大学 総務部 人事課 ☎ 0120-61-1181 TEL: 携帯の方 049-276-1115

SAITAMA MEDICAL UNIVERSITY

クリスマスコンサート

診療サービス委員会



今回、初めて司会というものを務めることになり、お話をいただいたときはスムーズに進行ができるかなと不安もありましたが、一緒に司会を務めさせていただいた新井さんはじめ、診療サービス委員会の方々にサポートしていただきスムーズに会を進行することができたと思います。会場にお越しいただいた患者様も素晴らしい演奏に聴き入っておられ、また最後の合唱では会場にいるみんなが一つになり、大きな声で合唱することができ、会場に集まった全員で非常に有意義な時間を過ごすことができたと思います。

今回、司会進行をするにあたり演者の方々からお話を伺い、プロフィールをまとめたり演奏後、簡潔に感想を伝えたりなど聴いている方々に分かりやすい言葉で伝えるのは意外に難しいものだと感じ、非常に良い経験になりました。

音楽を通して、みんなが楽しい気持ちになれるこのような機会は本当に有意義で素晴らしいものだと感じました。

今後、司会を務めさせていただく機会があれば、今回のクリスマスコンサート以上に場を盛り上げ、みんなが一体となって楽しめる空間を作れるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました！

中央放射線部 佐藤浩彰

今年のクリスマスコンサートも大勢の方にご参加いただきありがとうございました。今年のクリスマスコンサートは独唱やピアノ演奏、バイオリン演

奏、吹奏楽、合唱など盛りだくさんの内容でした。素敵な歌声や優しいピアノの音、美しいバイオリンの音、そしてハーモニーがきれいな吹奏楽の演奏に包まれて過ごした時間はとても心地よく、私自身もとても幸せな時を過ごさせていただきました。お越しくださった方々の気持ちよさそうに演奏を聴いている様子や一緒に音楽を口ずさんだり、手拍子をしたりと楽しそうに過ごされる皆様の笑顔が印象に残っています。

コンサート終了後に病室へ戻る患者さんから「楽しかった」、「ありがとう」との声をかけていただきました。音楽を通して素敵な時間を共有でき、笑顔のあふれるコンサートとなったことを嬉しく思います。最後にクリスマスコンサート開催、運営に伴いご尽力いただいた診療サービス委員会の皆様に感謝申し上げます。

栄養部 新井朱美



駐車場の有料化について

総務課

埼玉医科大学総合医療センターでは、平成27年4月1日より、病院利用者以外の無断駐車や長期にわたる不適正駐車を規制し、外来患者さんが優先的に駐車できるよう、円滑な駐車場運営を目的として、以下のとおり駐車場を有料とさせていただきます。

ご利用の皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。尚、入院患者さんの駐車はお断りしております。ご理解・ご了承の程お願いいたします。

■来院者駐車場料金体系

外来患者さん	入庫から1時間無料	8時間まで 300円	駐車券を病院内にお持ちになり、必ず検印を受けてください。
一般の方（面会含） ※外来患者さん以外		以降30分ごと 150円	検印はございません。

■検印の受付時間・場所

対 象	受付時間	場 所
外来患者さん	8時30分～17時30分	1階 医務課会計窓口
	17時30分～ 8時30分	1階 警備員室

※入庫時にお取りいただいた駐車券をご呈示の上、検印を受けてください。

■駐車場地図



外来受診について

初めての方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
- * 診療時間 9:00 ～ 17:00

再来の方

- * 診療日 月曜～土曜
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- * 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
(予約の方を除く)

予約以外の11時以降の受付はありません。

初めての方、再来の方も午後まで診療を行ってありますが11時以降の受付はできません。(再来で予約のある方を除く) また、診療科や曜日によって受付できない場合もあります。

面会者へのお願い

- ・ 咳、熱などの症状ある方やお子様の面会はお遠慮ください。
- ・ 必ず病棟の看護師に面会の許可を得てください。

アクセス

電車

池袋より東武東上線・東京メトロ有楽町線30分
川越駅下車
西武新宿駅より西武新宿線60分
本川越駅下車
大宮駅よりJR埼京線20分
川越駅下車
大宮駅よりJR高崎線9分
上尾駅下車
※下車後、バスまたはタクシーでおいでください。

バス

川越駅東口より東武バス
(上尾駅西口・平方・埼玉医大・川越運動公園行き)
(25分)埼玉医大下車
JR高崎線上尾駅西口より東武バス(川越駅行き)
(20分)埼玉医大下車
市内循環バス「川越シャトル」40系統 42系統 43系統

車

関越自動車道川越インターより8km、約15分
県道51号線(川越上尾線)沿い

保険証確認のお願い

当院では受診の際、毎回「保険証」の確認をさせていただきます。

その理由として、保険の資格喪失や有効期限切れが数多く発生し、保険者(会社・市町村等)に誤った請求をしてしまうからです。

会計受付時にファイルに入れてご提示ください。また、保険証を変更された際には速やかにお申し出ください。

ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



表紙写真：初大師 だるま市

編集後記

三寒四温のうちに、季節は冬から春へと移りつつあるようです。風邪など召されませんよう体調にはお気を付け下さい。

毎年喜多院では1月3日の初大師の日にだるま市が立ちます。

境内や参道には関東各地のだるま商が並び、開運の縁起物とされる「だるま」を求めて多くの参拝者が訪れています。関東各地から来るだるまは店ごとに顔や大きさも異なり手のひらサイズの小さなものから、一抱えもある大きなものまで様々です。赤色が中心ですが、最近では青、白、黄、緑、ピンクなど願い事別に色分けされた風水だるまや、干支の形のだるまを見かけます。御利益のある一年にするためにも、じっくり店を回って気に入ったものを選んでみてはいかがでしょうか。

12月にはクリスマスコンサートを開催しました。今回もたくさんの方に参加いただき笑顔が印象的なとても素敵なコンサートになりました。

次号の発行は5月を予定しております。

編集員

中央放射線部クイズ回答 ①ネックレス ②下着 ③カイロ

埼玉医科大学総合医療センターニュース 第38号

発行年月日 平成27年2月28日
発行 埼玉医科大学総合医療センター
発行責任者 病院長 堤 晴彦
連絡先 医療センターニュース編集局(医務課内)
印刷 ヨーコー印刷(株)